

小2：国語

単元名「お話の作者になろう」

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	<p><めあて> 絵を見て自分だけのお話を考えよう。 1) 学習の流れをつかむ。 2) 学習に必要な言葉の確認をする。 3) 1枚の絵を見て、その場面に合うお話を考える。 4) 3つのまとまりに分けて、お話を考える。(最初は「はじめ」と「おわり」部分。) 5) お話を書く。</p>	<p>○1 時限目の準備として、宿題で言葉調べワークシート①に取り組んだので、授業開始時には物語を学習する時に必要な言葉(作者・登場人物・出来事・あらすじ)がしっかりと理解できていた。そのため、単元全体を通して先生の指示が明確に理解できたり、流れについてくるのがきちんとしてきたりしていた。授業に置き去りになる子ども達がいなかった。 ○「はじめ」の部分の絵を見て、人物の紹介や出来事などを考える活動(ワークシート⑤)はシンプルで分かりやすかったので、子ども達が自由に発想をふくらませて書くことができていた。</p>	<p>△「はじめ」と「おわり」に注目して書く活動。 →ワークシート②(はじめの部分について記述)は内容がシンプルで、子ども達にとって書きやすかった。それに比べて、ワークシート⑥(おわりの部分について記述)は、書かせる項目が小2にとっては多かったため、子ども達が困惑気味だった。 →ワークシート⑥を②のようにシンプルに作成し直す必要があると感じた。</p>
	<p>家庭学習課題 ・ワークシート3と4「言葉集めワークシート」を終わらせる。 ・NHKのビデオ視聴 【にているけどちがうことば】</p>	<p>○述語調べ：「だれが、どこで、なにをした」を書き抜く課題。 →ワークシート③④で、本文からじっくりと述語を探してワークシートに書き出したので、改めて「主語と述語」の関係を意識することができた。また、述語として使われる言葉や述語が使われる位置を確認することができた。この活動が、単元最後に物語を書く課題で生かされた。</p>	
2	<p><めあて> お話に『できごと』があるりゆうを考えよう 1) スイミーを題材に用いて、お話の中の「出来事」の重要性について考える。</p>	<p>○小2前期で学習済みの「スイミー」の物語を題材として使うことで、「中」の部分には『出来事や事件(山場)』が起こることに、子ども達自らが自然に気付くことができた。また、普段は発言をしない子どもも自分の考えを発表することができた。 ○体を動かして(手でハート型を作り、それを顔の周りでぐるぐると移動する)「感情の動き」を体感させることができた。 ○「はじめ」と「おわり」だけの物語では、「感情の動き」が入っていなかったと子ども達も自ら気づくことができた。</p>	<p>・小2で既習の「スイミー」を使い、「中」の部分で「読み手が感動する出来事が起こること」を確認し、物語に深みが出ることに気付かせる。</p>
3	<p><めあて> まとまりごとに場面をつなげてお話を書こう。 1) 「中」の部分なる出来事を考える。 2) ワークシートにお話の中を書く</p>	<p>△机上スクリーンを使用していたため、机の上に教科書とワークシートを同時に広げて置くことが難しかった。 ○小2単元の「おてがみ」のさし絵3枚を使って、物語創作の練習を行ったことで、読み手の心を動かすためには、登場人物の気持ちの変化に着目しながら「山場」を作る必要性があるとしっかりと理解することができた。 ○ワークシート⑧にあるイラスト6種をホワイトボードに掲示することで、子ども達が『できごと』を考えやすくなった。視覚的な教材があると、子ども達は課題に興味関心を持ちやすく、楽しく主体的に取り組める。 ○どうしても書けない子どもには、「どこからでも良いから、書けそうなところから書いてみようね。」と声掛けをしたところ、まずはお話に合う絵から書き始めることができた。</p>	<p>△机上スクリーンがあるために、机間指導中にワークシートの記述を確認することがスムーズにできなかった。(記述が見えにくかったため) △物語創作の練習では、ワークシート⑨を使用せずに、口頭練習だけにした方が子ども達にとって取り組みやすくなり、時間短縮にも繋がると感じた。</p>
	<p>家庭学習課題 ・NHKのビデオ視聴【かくとぎのことば】 ・清書を終わらせる。清書がおわったら「お話しチェックリスト」を使って お話の内容を確認する。(グループクラスルームにアップロ</p>	<p>○「清書・下書き」ワークシートに書かれている文例を参考にして物語を書いた子ども達もいた。手立てが必要な子ども達にとっては非常に有効なワークシートであった。 ○半数の子ども達が読み手の気持ちをゆさぶるような内容が書けていた。</p>	<p>○書くことが難しい子どもには、教師が取り掛かりの部分と一緒に見つけてあげることが大切であると感じた。 ・NHKビデオで「書く言葉」が正しく使えているか、保護者の協力を得て、家庭で確認してもらった。 ・創作した物語を家庭で読み、それを動画に撮影後にGoogleクラスにアップロードさせた。コロナ感染予防対策で動画撮影にした。</p>

	ード) 担任から返却されて訂正がなければお話を音読する練習をする。動画に撮り（グーグルクラスルームにアップロード。		
4	<p><めあて> 作ったお話をみんなに聞いてもらおう。 1) 友だちとお話を聞かせ合う。 2) 友だちの話を評価する。 3) 学習を振り返る 4) 自己評価をする</p> <p>家庭学習課題 ・出来上がった作品をおうちの人にプレゼントする。</p>	<p>○宿題として家庭で録画した創作物語を教室で視聴したので、画像も音声も鮮明だった。友達の発表が見やすかったため、子ども達が友達の物語に興味を持って聞いていた。</p> <p>○動画撮影のために何度も練習をしたので、子ども達が教室でも発表したいと意欲が高まった。非常に意欲的な様子が見られた。</p> <p>○1000字の大作が書けた子ども達もいた。</p>	<p>△提出 14名 (18名中)。未提出が1名は家庭で保護者の協力が得られなかったため、仕上がらなかった。</p> <p>△紙芝居風のワークシートにした方が、聞いている子ども達にとって視覚的にイメージしやすい効果があると感じた。</p>
<p>【伸ばせた力・子どもの変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「作者」「登場人物」「あらすじ」「出来事」など、物語を読む上で必要な語彙を授業で繰り返し用いることで、子ども達にとって身近な言葉となったように感じた。 ・物語から述語を見つけワークシートに書きぬく活動を通して、主語と述語の関係を意識して文章を読んだり書いたりすることができるようになった。 ・国語の授業で積極的に発表をしようとしなかった子ども達でも、「自由に想像して自分だけのお話を作る」という課題の発表の際には、意欲的に取り組む姿が見られた。 ・発表会は、事前に家庭で録画した物語を視聴する形にした。その際に、発表者には前に出てもらい、物語のさし絵を披露してもらった。コロナ禍でオンライン授業が続いたため、小学校に入学して初めての対面授業での「発表会」となったが極度に緊張した子どもは見られず、前に出て発表することへの苦手意識を払拭できたように感じた。 			
<p>【所感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手立てが多すぎた（ワークシートの活動が多すぎた）ので、子ども達が混乱したかもしれない。 ・教科書3枚の絵だけでは、物語を自由に広げることが難しかったため、登場人物の設定のみを統一した。そして、あとは自由に想像しても良いとし、絵はお話に合うように自由に描いて良いことにした。このことにより、児童にとっては取り組み易くなったように思う。 ・授業中にワークシートに手を付けない（付けられない）子ども達が2名いた。家庭へ連絡をして、協力を依頼したので作品は仕上がった。 ・ブレインストームの時間の配分が多く、実際に授業で書く時間の配分が若干少なかったように感じる。家庭の協力も必要だが、子ども達が自力で考える意欲を高めるためには、授業中に考えて書かせる時間をもう少し増やしてもよかったと思う。 ・日本語力に課題のある子ども達には家庭での協力が必須だと感じた。原稿用紙のマスの使い方についての指導も合わせて行えると、更に良かったように思う。 			